

第一期

嘉永六（一八五三）年から昭和二〇（一九四五）
年八月一四日まで

（一）創立・社格付与関係

【一】癸丑以来唱義精忠国事ニ斃ル、者ノ靈魂ヲ慰シ東山ニ祠宇ヲ設ケテ之ヲ合祀セシム（太政官布告）
〔法令全書〕第三八五明治元年5月10日

大政御一新之折柄賞罰ヲ正シ節義ヲ表シ天下之人心ヲ興起被遊度既ニ豊大閣楯中將之精忠英邁御追賞被 仰出候就テハ癸丑以來唱義精忠天下ニ魁シテ國事ニ斃レ候諸士及草莽有志之輩冤枉罹禍者不少此等之所爲親子之恩愛ヲ捨テ世襲之祿ニ離レ墳墓之地ヲ去リ櫛風沐雨四方ニ潜行シ專ラ舊幕府之失職ヲ憤怒シ死ヲ以テ哀訴或ハ摺紳家ヲ鼓舞シ或ハ諸侯門ニ説得シ出沒顯晦不厭萬苦竟ニ抛身命候者全ク名義ヲ明ニシ 皇運ヲ挽回セントノ至情ヨリ盡力スル處其志實ニ可嘉尙況ヤ國家ニ有大勳勞者争カ湮滅ニ忍フ可シヤト被歎 思食候依之其志操ヲ天下ニ表シ且忠魂ヲ被慰度今般東山之佳域ニ祠宇ヲ設ケ右等之靈魂ヲ永ク合祀可被致旨被 仰出候猶天下之衆庶益節義ヲ貴ヒ可致奮勵様 御沙汰候事

【二】東山ニ一社ヲ建テ當春伏見戰爭以來戰死者ノ靈魂ヲ祭祀セシム（太政官布告）〔法令全書〕第三八六明治元年5月10日

當春伏見戰爭以來引續東征各地之討伐ニ於テ忠奮戰死候者日夜山川ヲ跋涉シ風雨ニ暴露シ千辛萬苦邦家之爲メ終ニ殞命候段深ク不憫ニ被 思食候最其忠敢義烈實ニ士道之標準タルヲ以テ叡感之餘リ此度東山ニ於テ新ニ一社ヲ御建立永ク其靈魂ヲ祭祀候様被 仰出候尙尙後王事ニ身ヲ殲シ候輩速ニ合祀可被爲在候間天下一同此旨ヲ奉戴シ益可抽忠節且戰死之者等其藩主ニ於テモ厚ク御趣意ヲ可奉體認旨被 仰出候事

【三】兩野総房武奥州戰死者ノ招魂祭ヲ江戸城内ニ執行ス（太政官布告）〔法令全書〕第四四〇明治元年6月1日

今般兩野總房武奥州數箇所ニテ致戰死候輩明日巳刻御城内於大廣間招魂祭被 仰出候條諸藩隊長司令士登城拜禮被 仰付候事

【四】戊午以来国事ニ勞シ非命ノ死ヲ遂ル者及脱籍
流離ノ者等ヲ查点シ祭祀若クハ救助ヲ施行セシム
(行政官布告) 『法令全書』 第一〇九四明治元年12月18
日)

大政御一新ニ付天下之衆庶其所ヲ得各其志ヲ遂候様覆載至仁之
御趣意ニ付鰥寡孤獨窮民等ニ至ル迄追々 御賑恤之道モ相立候
處戊午以來國事ニ周旋シ 皇室ニ勤勞候者却テ爰束之爲ニ非命
之死ヲ遂ケ其妻子等飢寒ニ苦ミ且幸ニ存命候モ脱籍流離候族モ
有之哉ニ相聞ヘ實ニ不憫之事ニ候依之今般京都府ニ於テ夫々取
調死亡之忠魂ヲ慰祭シ妻子救助等執行ヒ候ニ付テハ府藩縣共其
管轄中右等之者有之候ハ、篤卜取調祭祀救助等行届洽ク 御仁
澤ニ浴シ候様可取計旨 御沙汰候事

【五】(軍務官上申書) (招魂社ニ永世高一萬石下賜ノ
儀) (明治2年8月9日)

先般招魂社取立ニ付テハ、兼テ高壹萬石御宛行相成候御趣意ニ
付、元東叡山領地御附相成候様大村兵部大輔ヨリ申出仕置候ヘ
共、其後何ノ御沙汰モ無ニ御坐候ノ處、近々招魂社圍込中普請
仕、且昨年大總督府御東下ノ節、駿遠有志ノ神主共御隨從罷越
居候。早々居住夫々所分相付申度候ヘ共、旁ノ都合ニテ其儘招
魂社附申付度、彼是右社領御附ノ義、早々御沙汰御座候様仕度、
万一領地御付ノ義御六ツ敷御坐候ハ、現米ニテ石高御宛行被_レ
下度候。依テ別紙ノ通ニテ御沙汰御坐候様仕度、此段申
出_レ候上。

招魂社

高壹萬石

爲_レ祭資ニ永世被_レ宛行候事

明治二年己巳八月廿二日

【六】(兵部省願書) (招魂社宛行高ノ内五千石ノ返上
願) (明治2年12月19日)

招魂社ヘ高壹萬石被_レ宛行候處、即今大藏省頗ル切迫ノ旨、
追々致_レ承知候。付テハ會計御目途御立候迄、右高ノ内五千石
返上仕度、此段奉_レ願候也。
(指金)
願ノ趣聞届候事。

【七】招魂社宛行高ノ内五千石返納ヲ許ス（太政官弁官達）（『法令全書』第一一七五明治2年12月20日）

大 藏 省
招魂社へ高一万石被宛行居候處即今御費用多端會計御目途相立候マテ右高ノ内五千石返上仕度段兵部省申出御間届被爲在候間此段爲御心得相達候也

【八】癸丑以來殉難死節ノ靈東京招魂社へ合祀ニ付人名履歴調査（太政官達）（明治8年1月12日）

嘉永六年癸丑以來殉難死節の靈、東京招魂社へ合祀の儀ニ付、別紙の通内務省へ相達候。此旨可ニ相心得事。
嘉永六年癸丑以來憂國慷慨の士、皇運ノ挽回ヲ期シ未タ其志ヲ不_レ遂、冤死致シ候者ノ靈魂、戊辰年中京都東山ニ祠宇ヲ設ケ祭祀被_二仰付_一候處、今般更ニ厚キ思召ヲ以テ東京招魂社へ合祀被_二仰出_一候條、右東山配祀ノ者、及ヒ是迄各府縣招魂場ニ於テ祭祀執行來リ候者共ヲ始メ、其餘戊辰以前舊藩々ニ於テ殉難死節の者、其名湮滅シ未タ祭祀等ノ列ニ漏_レ候者モ可_レ有_レ之候間、篤ト穿鑿ヲ遂ケ、無_レ遺漏_一姓名取調可_二申出_一、此旨相達候事。但シ東山靈祠及ヒ各地招魂場等ハ從前の通被_二据置_一候。此旨可_二相心得_一事。

【九】（内務省照会（癸丑以來殉難死節ノ靈東京招魂社へ合祀ノ儀））（明治8年1月14日）

癸丑以來憂國慷慨ノ爲メ冤死致候者ノ靈魂、當府下招魂社へ合祀ノ儀ニ付、一昨十二日付ヲ以別紙寫ノ通御達シ相成候處、右合祀ノ儀ハ此際一般へ御發達相成候儀ニ有_レ之候哉、又ハ人名取調ノ爲メ當省へノミ御達相成、追テ上達ノ上一般へ御發達相成候譯ニ候哉、取調方ノ都合モ有_レ之候間、折回御回答有_レ之度、此段及_二御問合_一候也。

【一〇】(太政官回答(癸丑以來殉難死節ノ靈東京招魂社へ合祀ノ儀ニ付回答)) (明治8年1月17日)

癸丑以來憂國慷慨冤死候者、府下招魂社へ合祀云々御達ノ儀ニ付、御問合ノ趣致ニ承知候。右ハ御省ヨリ各府縣へ夫々御達相成、取調出來ノ上取纏上申有之候節、一般ノ布告ハ御詮議振可有之候、此段及御回答候也。

【一一】嘉永癸丑以來殉難死節ノ者東京招魂社へ合祀ニ付詳細取調差出サシム (明治8年1月25日内務省乙第六号達) (『法令全書』)

府 縣
嘉永六年癸丑以來憂國慷慨之士 皇運之挽回ヲ期シ未タ其志ヲ不遂致冤死候者之靈魂今般厚キ 思召ヲ以テ東京招魂社へ合祀可相成ニ付京都東山配祀ノ者及ヒ是迄各府縣招魂場ニ於テ祭祀執行來リ候者共ハ勿論其餘戊辰以前舊藩々ニ於テ殉難死節ノ者其名湮滅シ未タ祭祀等ノ列ニ漏レ候者迄モ精密穿鑿ヲ遂ケ各人ノ履歷及ヒ殉難死節ノ顛末凡小傳ニモ可充程ニ詳細取調可差出此旨相達候事

【一二】癸丑以來殉難死節ノ者取調方督促 (明治8年4月25日内務省丙第一七号達内務省発府県宛) (『法令全書』)

府 縣 大阪府宮城縣千葉縣石川縣 岡山縣岩手縣岐阜縣除之
嘉永癸丑以來殉難死節ノ者履歷及顛末等取調可差出旨本年乙第六號ヲ以テ相達置候通早々取調來ル五月三十一日ヲ限り有無共急度可申出旨相達候事

【一三】（陸軍省第一局伺書（府下招魂社々務取扱ノ為メ神官被置度儀））（明治11年10月19日）

招魂社ノ儀ハ、是迄一定ノ神官無シ之、既ニ現今雇ノ者若干名ヲ掛ケ社務爲ニ取扱「居候處、該社ノ儀ハ永世不朽ノ一大社ニ候得ハ、更ニ左ノ通神官ヲ被置候様致度、仍テ別紙太政官付案相添、此段相伺候也。

【一四】（陸軍省伺書（府下招魂社々務取扱ノ為メ神官被置度儀））（明治11年10月24日）

府下招魂社ノ儀ハ、特ニ別格ノ神社ニシテ、大祭ノ節ハ陸海軍卿ノ中祭主トナリ、且兩省武官ノ内ヲシテ祭典ノ「ヲ執行セシメ候ヘ」其以下ノ属官即平常該社ニ在テ社務ヲ取扱候者トテハ是マテ一定ノ儀無、或ハ當省判任并等外出仕ノ者若干名ヲシテ其事ニ從ハシメ候義モ有シ之候處、何分不都合ノ筋有シ之、昨年中相廢止、其節不取敢ニ同社雇ノ名目ヲ以テ若干名ヲ掛ケ、爾今引續キ社務爲ニ取扱來候。抑該社ノ義ハ永世不朽ノ大社ニ候ヘハ、更ニ相當ノ属官ヲ置キ、宜ク社務ニ從ハシメサルベカラスト相考申候。仍テ自今左ノ名稱ヲ以テ神官若干名ヲ置キ、當省管轄ニテ社務爲ニ取扱候様イタシ度、此段相伺候也。

判 任		月給
人員	一人	五拾円以下 四拾円以上
官名	社司	三拾五円以下 二拾五円以上
	副社司	二拾円以下 十円以上
	社掌	

追テ本文祭主以下祭典ノ「ヲ執行候儀ハ、於「兩省」是迄ノ通相心得可申、此段申添候也。

伺ノ趣難「聞届」候事。十一年十一月廿七日

【一五】（太政官法制局議案（府下招魂社々務取扱ノ為メ神官被置度儀ニ付回答））（明治11年11月11日）

別紙陸軍省上申、府下招魂社々務取扱ノ為メ神官設置ノ儀取調候處、元來該社ハ社格モ無シ之、祭祀ノ時ハ陸海軍兩卿ノ中ノカ祭主トナリ、武官之ヲ執行スル等ノ「ハ他ノ神社トハ全ク特別ニ有シ之候。然ルヲ其祭祀等ハ旧ニ依リ、只其社司・社掌ノミヲ設ケ、之ヲ陸軍属官ニ列候ハ「甚タ不都合ノ儀ト考候。追テ社格・祭式等總テ御定メ相成候「ハ格別、夫迄ハ先ツ從前ノ通爲ニ取計ニ置候方可然哉。御指令案取調、仰「高裁」候也。

【一六】(陸軍省第一局伺書(東京招魂社々格御定ノ儀)) (明治11年12月17日)

招魂社々務爲ニ取扱ニ神官被レ置度段相伺候処、去月二十七日伺ノ趣難聞届ニ旨御指令ノ趣敬承。然ル処該社ノ儀、社名ニ就テ觀ルハ、其時々靈魂ヲ招キ神饌ヲ享ケシムルノ招魂場ニ過キサルカ如シ。付テハ唯一・二ノ監護人ヲ置キ別ニ神官ヲ要セス(雖モ)ト届ヒ、同社ノ事其實右様ノ譯ニ無之、戊辰以來國家ノ爲メ忠奮戰死セシ靈魂常ニ鎮座有之、仍テ永世不朽ノ法ヲ立テ、即チ年々四回ノ大祭アリ、月々四回ノ小祭アリテ、慰答ノ聖旨至ラサル所ナク盡サ、ル所ナシト届ヒ、唯其神官ヲ置カレサルヲ以テ一社ノ體裁を爲サ、ル様被レ考深ク遺憾ニ存候。今現ニ同社ニ雇ノ者若干名ヲ置キ社務ヲ取扱ハシム。其職務タル固ヨリ神官ニ異ナラサルモ、直チニ神官ノ稱号ヲ不設候ハ、大小祭典及平素細大ノ義ニ付不都合不^レ少、且又本社設立ノ際旧神官ノ者ヲ撰ミ社司・社掌ノ名稱ニテ奉仕セシメ、其後名稱ハ種々變換致候ヘヒ、今ニ至ルマテ引續キ當省軍人死亡ノ節、葬儀祭式等ヲモ兼テ取扱ハセ來リ候儀モ有^レ之候ヘヒ、其名義不正候間、旁以先回伺書差出候儀ニ有^レ之候條、猶篤卜御詮議相成度、將亦先回御指令旨趣ノ在ル所ハ難^レ被^レ察候ヘヒ、自然社格無^レ之ヨリ御聞届難^レ相成^レ義ニ候ヘハ、更ニ相當ノ社格御定相成候上、何分ノ御指令相成度。此段再應相伺候也。

【一七】(海軍省上答(東京招魂社々格御定ノ儀ニ付上答)) (明治12年4月14日)

陸軍省伺東京招魂社々格御定ノ儀ニ付、去月三十一日御内議案ヲ以意見御照會ノ趣、敬承仕候。右ハ於^ニ當省^一何等異存無^レ之候條、此段上答仕候也。

【一八】(内務省上答(東京招魂社々格御定ノ儀ニ付上答)) (明治12年4月17日)

別紙陸軍省伺東京招魂社々格等ノ件、御下問ノ旨敬承。右社格ニ就テハ別段意見無^レ之候、此段上答ニ及ヒ候也。

【一九】（陸軍省上答（東京招魂社々格御定ノ儀））
（明治12年4月21日）

別紙招魂社々格ノ義ニ付意見可ニ申出 旨御照會ノ趣、致ニ承知一候。右於ニ社格ハ聊異存無_レ之候ヘ_レ氏、自今三省ニ於テ共々管理致候テハ却テ錯雜ノ儀モ可_レ有_レ之ト被_ニ相考_ニ候間、概ネ其權限ヲ定メ取扱候様致度、仍テ左ニ御達案ヲ起草シ進呈仕候。且又同社神職ノ儀ハ他ノ神社ト違ヒ、本給ノ外所得物トテハ更ニ無_レ之、就テハ自然御定則ノ月俸ニテハ實際被_レ行間敷候間、當分ノ中當省ノ見込ヲ以相當ノ増給差遣候様致度、上答旁此段申進候也。

【二〇】（陸軍省上申（東京招魂社々格並神官ノ儀））
（明治12年5月3日）

招魂社々格并神官ノ儀ニ付、昨十一年十二月中再應相伺置候処、于今何タル御指令無_レ之、定テ御僉議中歟ト被_レ存候。然ル処招魂社ノ稱号タル一時祭典ヲ舉クルノ日、在天ノ靈魂ヲ招キ神饌ノ供ヲ享ケシムルノ場所ヲ指シテ唱フルモノ、如クニシテ、永世不易ノ社号トハ不_レ被_レ存候間、更ニ相當ノ社号ノ義モ併セテ御評議相成度、此段及_ニ上申_ニ候也。

【二一】（陸軍省伺書（招魂社々格並神官ノ儀））（明治12年5月6日）

招魂社々格並神官ノ議ニ付キ昨十一年十二月中太政官へ再應御上申相成居候處方今御詮議相成居候歟已ニ過日御下問ノ趣モ有之就テハ近々社格御取極メ可相成然ル處當時招魂社ノ稱号タル一時在天ノ靈魂ヲ招キ神饌ノ享ヲ受ケシムルノ場所ヲ指シテ唱フルモノノ如クニシテ萬世ノ不易ノ社號トニ不_レ被_レ存候間今般更ニ社號賜候様別紙ノ通御上申相成度此段相伺候也

○別紙上五月二日指令伺之通
申書略之

【二二】(陸軍省回答(招魂社々号ノ儀))(明治12年5月7日)

本月三日附ヲ以招魂社々号ノ儀ニ付及ニ上申置候処、右社号ニ當省ノ考案モ有之候ヘハ、可ニ申出様御照會ノ趣致ニ承知候。右ハ左ノ通御定相成可然ト存候。此段及ニ御回答ニ候也。
靖國神社

【二三】(太政官法制局議案(招魂社々格並神官ノ儀))(明治12年5月19日)

別紙陸軍省伺招魂社々務爲ニ取扱ニ神官被レ置度儀審案候処、莫ニ社司・社掌等設置申出ノ節聞届ラレサルハ、全ク該社ハ社格無レ之、且陸軍省所管中ニ右ノ如キ職名ヲ被レ設理由無之ニ因レリ。然ルニ猶再應申出候本案ニ於テハ、軍人死亡ノ節葬儀等ヲモ兼テ取扱ハセ來リ候趣、右ハ教導職ニ非サル者、葬儀ニ關與スヘカラサルハ律ニ明文有レ之以上ハ難レ閣儀ニ候。然ルニ現地同社々職ノ者ニ於テ、軍人ノ葬儀ヲ取扱候ハ、又便宜不レ得レ已事ニ付、此際該社ヲ以テ別格官幣社ニ被レ列、宮司以下式ノ如ク職員ヲ設置相成候方允當ヲ可レ得。尤モ該社ハ祭式始メ諸事他ノ神社ト同一視スヘカラサルハ言フ俟タサル事ニ付、其管理等ノ義ニ付テハ官幣小社札帳神社・國幣小社函館八幡宮等神官ノ進退ヲ内務卿ニ於テ管理シ、定額金并管繕等ハ開拓使長官ニ於テ管理シ、同使定額金内ヲ以テ支出候例規モ有レ之候ニ付、旁別紙甲号ノ通内務・陸軍・海軍三省へ御下問相成候処、乙号ノ通夫々申出候ニ付、猶陸軍省見込ヲ參酌シ、左案ノ通三省へ御達相成可然存候。其後猶又陸軍省ヨリ丙号社号ノ義ニ付上申有レ之、仍テ見込問合候処、丁号ノ通回答有レ之調査候処、申出ノ通御聽許相成候方可然哉。仍テ諸案相添仰高裁ニ候也。

【二四】東京招魂社靖國神社ト改称別格官幣社列内務陸海軍三省管理祭典其他常務取扱区分(太政官達)(『法令全書』明治12年6月4日)

内務省 陸軍省
海軍省 東京府

東京招魂社
右靖國神社ト改称別格官幣社ニ被列候條此旨相達候事

内務省 陸軍省 海軍省

東京招魂社ノ儀今般靖國神社ト改称別格官幣社ニ被列候ニ付テハ自今内務陸軍海軍三省ニ於テ管理可致尤モ祭典其他ノ常務ハ左ノ區分ニ從ヒ可取扱此旨相達候事

一 祭式ハ神社祭式ニ準シ陸軍海軍二省ノ官員之ニ臨ミ執行スヘシ

一 祭式ノ外施設ノ廉竝例典ハ從前ノ通

一 神官進退黜陟ハ内務省ノ專任タルヘシ

一 神官増員若シクハ増給ハ内務陸軍海軍三省協議ノ上具申スヘシ

一 建築修繕等及ヒ其他一切ノ經理ハ陸軍省ノ專任タルヘシ

但本殿拜殿等ノ模様替ニ係ルハ三省ノ協議ヲ要ス

【二五】官国幣社ノ神官ヲ廃シ更ニ左ノ神職ヲ置ク
（明治二十年三月十七日閣令第四号）

閣令第四號

官國幣社ノ神官ヲ廢シ更ニ左ノ神職ヲ置ク

明治二十年三月十七日 内閣總理大臣伯爵伊藤博文

宮司
禰宜
主典

宮司ハ内務省ニ於テ之ヲ補シ禰宜主典ハ北海道廳府縣ニ於テ之ヲ補ス靖國神社宮司以下ハ陸軍省海軍省ニ於テ之ヲ補ス宮司ハ奏任ノ待遇ヲ受ケ禰宜主典ハ判任ノ待遇ヲ受ケ

【二六】「靖國神社誌」(抄) 起源 (明治44年12月)

靖國神社誌

靖國神社宮司 賀茂百樹編

起源

謹みて按ずるに、皇祖國を建て統を垂れ給ひしより、列聖相承け億兆を慈育し給ひて、恩徳洽く民心に孚し、深く肺腑に徹しぬれば臣民唯皇室の御爲めに身を獻げて忠勇事にしたがひ、死しても亦護國の神たらむことを期す。生死一貫國家に對する赤誠は、この國民の性格となり、遂に我國體の美を濟し、國史の粹を作るに至りぬ。それ、敬神尙武は政教の大本にして、忠勇は國家の元氣なり。國家の元氣は強健ならざるべからず。是れ、古來神社を建設し、忠勇の神靈を奉祀して偉烈を顯彰し、威靈を欽仰する所以なり。されば此事の獨り我國にのみ、存して、他國に之なきは、固より然る所なりとす。而して幕府施政の末期、時運窮極し、内憂外患存りに臻るや、勤王の志士雲の如くに起り、元氣の醞釀する所、王政復古の大業を激成し、進取の國是、維新にして、明治二十七八年役を經、明治三十七八年役にいたりて、有史以來未曾有の偉績を奏し、東洋の局面を一變し、世界の歴史に異彩を放つに至りぬ。神州正大の氣の靈動遺憾なしと謂ふべし。されど嘉永癸丑以降、忠憤義烈殉難死節の偉丈夫を失ひたること亦夥し。是に於てか先帝大に之を愍ませたまひ、民間に於ても志士また志士を追念し、神州の特風として靈祭舉行の議を提唱し、文久二年壬戌十二月、福羽美靜、古川躬行等、其他六十有餘名、平安靈山に會して私祭を擧げ、文久二年に至り、安政五年以來國事に死せし者を追赦する旨の詔あり、是に因りて此私祭を執行する事を得しなり、同祝詞中に志士の追祭と神祇官再興とを建白せしこと見ゆ、後二つ、其翌三年七月には津和野藩士等相會し祇園社[○]京内に小祠を建て、弔祭を行ひたりき。○祝詞に、近く公儀よれども、未だ御慮に任せたまはざるを以て行ふとあり、以て祭祀せらるべき筈なべし、後に幕府の嫌疑を恐れ小祠を毀ち、靈壘をば福羽子爵の宅に移し、今猶之を、此後五年を經て、國櫻山及周防國吉敷郡下宇野令の招魂社の如きは元治元年の設置なり、これら各藩を通じて、明治元年有栖川宮熾仁親王東征大總督として東國を鎮撫し給ふや。同年四月二十八日令旨を下して陣歿者の爲めに招魂祭を行ふ旨達せられ。六月二日江戸城内西丸大廣間に於て莊嚴なる祭典を行ひ。有栖川大總督宮、

三條實美及諸卿大夫、各藩隊長、司令官列座の間に、鼓樂洋洋々威儀々々として大に神靈を慰め、諸士の心を安んぜしめたり。○これを東京招魂社の次で朝廷に於ては、五月十日を以て癸丑以來殉難者の靈を東山に祭祀する旨仰出され、同七月十日十一兩日に河東操練場に於て祭典を舉行せられき。○これ京都招魂社に河東操練場に於て祭典を舉行せられき。○此年八月東京、京都兩地に行はれしが、翌二年三月東京に奠都遷幸あらせらるゝや、更に招魂社建設の議起りて軍務官知官事嘉彰親王勅を奉じたまひ大村益二郎、香川敬三、船越洋之助、増田虎之助、佐藤嘉七郎、松岡新七郎等をして社地を相せしめられ。○始め上野又は江戸見坂上を以て、其地に擬せしものありて、大村氏自ら出張し、九段坂上は官城の乾に位して高燥の良地なりと選定せしなりと云、終に九段坂上に選定して、六月十二日を以て其地を實測し同十九日起工、日ならずして假殿の竣成を見るに至れり。是を以て同月二十九日より七月三日まで祭典の儀仰出され、鎮祭の式を擧げらる。○始め二十八日より七月二日まで定められ、依り、かく、其の祭る所の神靈は、伏見鳥羽の役より函館の役に至る三十五百八十八柱にして、○嘉永癸丑以後の殉難死士の靈は、後これら神靈をも本社に合祀せらるること京都招魂社に祀られたればなりなりと云、合祀祭の項に述べたり、参照すべし、其前日、即ち二十八日申の刻清祓を修め、同夜丑刻に招魂の式を擧げ、翌二十九日に彈正大弼五辻安仲勅使として參向し勅幣を奉り、副知官事大村益二郎之を請ひて内陣に納め、次で知官事嘉彰親王祭主として祝詞を讀み給ひ、畢りて參列の官員、華族、各藩人をして拜禮せしめられ。其翌三十日より七月三日までは、祝部をして祭典に當らしめ、角力、煙火等の餘興あり。また各隊をして順次祝砲を發せしめらる。○發砲順序は大砲隊、遊軍隊、第三番大隊、第四番大隊、小銃隊、武庫、而して人民より供物餘興等を奉納せんとするものは之を許容し、且祭典中參拜者には神酒を賜ひ、特に戦死者を出し、各藩には神饌を分つこと各級あり。○これを遺族待遇、斯く鎮祭の式は極めて莊嚴に擧げられ、祝部、樂人、其他關係せし人々に物を賜ひて其勞を表せられき。以て其嚴重なるを見るべし。これを本社社鎮祭の起源とす。固より叡慮によりておこり國體に適合せる擧なれば。年と共に愈々人心に感孚し、明治十二年社號を賜ひ社格を附せられ。○當時祭神數萬八千餘柱、長へに祭祀の典を擧げしめられ。畏くも萬乗の尊を以てして尙且つ崇敬の禮を加へさせ給へば。至誠至忠なる我祭神の威徳は赫々として内外萬邦に輝き、臣子後昆永く聖慮の辱きを念ひ、天壤無窮の帝道と與に臣道の發揚亦盡くる期なからんとす。神州の生民誰か額手して祝福せざるものあらむ。

【二七】(殉国志士ヲ靖国神社へ合祀ニ關スル件)
(大正三年三月三日内務省明治四二衆丙第七号内務大臣
原敬宛内閣総理大臣山本権兵衛宛)

(朱書)
「内務省明治四二衆丙第七号」

別紙殉国志士ヲ靖国神社へ合祀ニ關スル件、上奏書進達ス。

大正三年三月三日

内務大臣 原 敬

内閣總理大臣 伯爵 山本権兵衛殿

(朱書)
「内務省明治四二衆丙第七号」

殉国志士ヲ靖国神社へ合祀ニ關スル件

文久二年四月廿三日伏見驛旅舎寺田屋事件ニ關シ、浪士鎮撫ノ
爲メ闖死シ、又ハ職責ヲ盡サザルノ故ヲ以テ自殺セシ者、及元
治元年七月十九日禁闕へ闖入ノ徒撃退ノ爲メ戦死セシ者、別紙
姓名故加藤兵左衛門外六十一人ハ孰レモ朝旨ヲ奉シ藩命ヲ躰シ
テ國難ニ殉シタル所謂、勤王愛國ノ志士ト認メラル、ヲ以テ別
格官幣社靖国神社ニ合祀セラレ可然ト認ム。仍テ合祀ノ件被
爲ニ仰出度、右謹テ奏ス。

大正三年三月三日

内務大臣 原 敬印